

# R

KANSAI  
UNIVERSITY  
NEWSLETTER

Man is a Thinking Reed.

# eedl

No. 24

February, 2011

関西大学ニュースレター  
発行日：2011年(平成23年)2月25日  
発行：関西大学 広報室広報課  
大阪府吹田市山手町3-3-35  
〒564-8680 / TEL.06-6368-1121  
<http://www.kansai-u.ac.jp/>



# MURAKAMI IMURA MASAYUKI

## 心の才能、を持って 海外へ飛び出そう!

「人を育てることは、答えの決まっていない応用問題」

■対談  
井村 雅代  
一般社団法人井村シンククラブ 代表理事  
関西大学客員教授

楠見 晴重  
学長

- リーダーズ・ナウ — 5  
在學生 — 留学生(チェコ出身)  
文学部総合人文学科4年次生  
スザナ・レンカ・ハコバロバさん  
卒業生 — メディアフォーユー株式会社 代表取締役社長  
里田 剛さん
- 研究最前線  
学生主体の語彙教材の素材収集プロジェクト  
ビジネスに必要な英語語彙を調査 — 7  
商学部 — 岡本 真由美 准教授  
「親街路性」と「親空性」の建築環境デザイン  
場所の声を聞く — 9  
環境都市工学部 建築学科 — 江川 直樹 教授
- トピックス [学内情報] — 11  
2012年4月、「関西大学留学生別科」を開設(構想中)  
「関西大学南千里国際プラザ」：留学生宿舎・教育施設を建設  
国際化推進拠点の創出  
留学生・一般学生・地域住民が「共に学ぶ異文化交流」の場に!  
「関西大学福島学舎記念碑」建立 除幕式挙行  
社会貢献・連携事業 / 地域連携 — 13  
ミズノ株式会社と連携協力に関する協定を締結  
スポーツを通じて社会貢献、地域連携  
新ユニホームを紫紺の関大色で統一  
「第4回 関大ふくい笑い講」開催  
文化会落語大学と「笑い測定機」も活躍  
福井県と連携し「笑いの力で健康長寿」を実現
- 関大ニュース — 15  
速記部が全日本大学速記競技大会で45連覇の快挙 ほか



心の才能を持って  
海外へ飛び出そう！

「人を育てることは、答えの決まっていない応用問題」

◎井村 雅代 ●一般社団法人井村シンクロクラブ 代表理事  
関西大学客員教授

◎楠見 晴重 ●学長

シンクロナイズドスイミングがオリンピック種目になってから、日本代表コーチとして常にメダルを獲得してきた井村雅代さんは、北京オリンピックでは中国チームを指導した。世界のトップを目指し、人を育ててきた人は語る。「心の才能」さえあればいい。若者よ、海外へ飛び出せ！その体験が人生の永遠のエネルギーになるだろう」と。

◆自分の頭で考えないと向上しない

楠見 今回の対談のゲストは、オリンピックのシンクロナイズドスイミングで7大会連続メダル獲得という偉業を成し遂げ、多くの選手を育ててこられた井村雅代先生です。井村先生には、昨年より関西大学の客員教授を務めていただいております。

実は私は中学時代、水泳をしていました。また、地盤環境工学が専門で、地下水が研究テーマの一つです。水のご縁で伺いますが、シンクロの選手は世界各地でさまざまな水に接し、その違いを体感されているのでしょうか。

井村 シンクロは競泳などに比べると、水を操ることが上手でないとできない種目です。だから、水にはとても興味があります。スペインで試合をしたときには、海水が混じっていて、浮きすぎて困ったことがありました。深さによって水圧が変わりますし、軟水・硬水によっても、また太陽の光の量によっても変化します。

立花美哉や武田美保など、世界のトップレベルになると、この水は軽い、重たい、ぬるぬるして手に絡みつくとか、そういうことを言います。水の状態に合わせて最後の調整をします。そうになったら一流ですね。

楠見 そういう微妙な違いを肌で感じられるのでしょうか。

井村 日本が強かった時代は、かなりの選手が感じていましたが、今は少なくなりましたね。それぐらい微妙なものなのです。

楠見 昔と今と、決定的に違うのは何ですか。気質の違いでしょうか。

井村 選手はいつも一生懸命なんです。その前に立つ指導者が、何を指すかだと思います。確かに今は保護者との関係も変わってきて、「ついて来い」だけではいなくなった部分はあります。しかし、大事なことは、前に立つ人間がその子をどうしたいか、です。また、選手に考えさせることも必要です。自分で考えないと、向上していかないと。

楠見 それは教育にも通じる場所がありまして、小中高の教育では、答えが出るようなことを教えられて、受け身でいいわけです。ところが、大学に入ると、答えがいくつもある場合や、答えがない場合もあって、自分の頭で考え、自分で答えを見つけていかなければなりません。

◆“心の才能”があればルックスはどうでもいい

楠見 井村先生には昨年一昨年と2回、本学で講演していただきました。世界を舞台に活躍してこられた体験談は、学生にはいい刺激になったと思います。お話の中で、“心の才能”が大事であることを強調なさっていましたね。

井村 フィギュアスケートもそうでしょうか、シンクロ選手を見て、足が長いとか、顔がきれいとか、スタイルがいいとか、体が柔らかいとか、世間はそんなことばかり評価します。そんな才能はあるに越したことはないけれど、もっと大事なものがあつたのです。

何がいちばん大事かという“心の才能”です。できなかったら「自分はだめだ」というのではなく、「自分の努力が足りなかったんだ」、「頑張り方が足りなかったんだ」と考えられる。それが心の才能です。「もっと努力すればいいんだ」、「もっと頑張ろう」と思える人が、心の才能のある人です。分からなかったら「分かるまで勉強しよう」、「分かるまで先生に聞こう」。その思いがあつたら、人を必ず動かします。そういう学生・生徒と接するのは、指導者冥利ですよ。



私はコーチを始めて37年ほどになりますが、オリンピックのメダルもいけれど、何がいちばん面白くて魅力かという、できなかった子ができるようになって、うれしそうに顔を赤くする、人間性が変わって自信を持って輝いてくる、かわいくて生き生きしてくる、それを目のあたりにすることです。

ルックスなんてどうでもいいのに、若者たちはそれを気にして自分はだめだかと思ってしまう。心の才能があつたら、短い足を長く見せる方法なんていくらでも教えてあげます。顔は関係ありません。なぜなら、顔は本当に心が反映するからです。オリンピックのメダリストの顔を見てください。男子はみんなかっこいい、女子はみんな美しく輝いていますよね。心が反映しているからです。いちばん大切なのは、心の才能なんです。

◆世界のトップは想像を超える

楠見 今の学生は、どちらかと言うと内向きになってきているのですが、大学4年間にできるだけ海外を経験し、文化を異にする人たちとコミュニケーションを図ってほしいのです。井村先生がおっしゃったような評価基準や価値観なども含めて、海外では「そうじゃない」ということを知ることが大事なんです。

井村 シンクロで日本が最も強かった時代の選手を、どうやって育てたかという、まず外国へ行くときに食べ物はお餅以外には何も持っていきませんでした。シンクロの選手は一日に5000キロカロリーを摂ります。水の中で多い日は13時間ぐらい、普段でも8時間以上、さらに水から上がっても練習があります。そうしたら痩せるわけです。トレーニングで痩せると、



■対談



人間が嫌いな人が先生になったらだめです。そんな先生に教えてもらう学生や子どもたちは、大きな迷惑です。そして、指導者は人の気配を感じられる人間でなかったらだめです。

井村 雅代 (いむら まさよ)

1950年大阪府生まれ。小学生のころから浜寺水練学校で水泳を習い、中学生になってシンクロナイズドスイミングを始める。天理大学卒業。選手として日本選手権チームで2度優勝し、公開競技として行われたミュンヘンオリンピックに出場。中学校の保健体育科の教諭を務めた後、シンクロ指導者となり、78年から日本代表コーチに就任。85年井村シンクロクラブを創設。シンクロナイズドスイミングがオリンピック種目になってから、7大会連続メダル獲得を成し遂げ、奥野史子、立花美哉、武田美保など、多くのオリンピック選手を育てる。北京オリンピックで中国の代表コーチを務め、チーム種目銅メダル獲得に導いた。2010年関西大学客員教授。朝日スポーツ賞など多数の賞を受賞。著書に「愛があるなら叱りなさい」「あなたが変わるまで、わたしはおきらめない」など。

筋肉が落ちないで脂肪が落ちます。脂肪が落ちれば沈む。今まで浮いていたのに沈むようになれば、手を素早く動かさなければいけないし、テクニックが変わる。だから痩せないために、寝る前にお餅を食べさせるのです。

私は海外で日本食屋さんには連れていきません。たいてい高いだけで、おいしくないでしょう。向こうの人は現地の食べ物を食べて、いい記録を出しているのだから、そのものを食べよう。世界中どこでも、パンとバター、チーズ、卵、ハムなどは必ずあるから、買いにいけばいい。それも楽しいし、カロリーや栄養のバランスを考えて選ぶ力もつく。そうやって育てた選

手はやっぱり強いです。

楠見 そういう練習を続けるのは、金メダルを取るため、世界で1位になるためなんですね。井村先生は講演で「銀メダルは狙うものではなくて、金メダルに挑戦した人の残念賞」とおっしゃっていました。それは研究の世界にも通じることで、国内ではなくて世界を見て、自分の研究が先端からどの辺にあるのかを知らないといけない。研究者は過去のモデルのまねをしていたら、同じものしかできない。スポーツの選手と研究者は、似ているところがありますね。

井村 そう思います。例えば、高橋君や織田君のフィギュアスケートの演技は、次の冬季オリンピックでどう進化するのか。世界中の観客の想像を超えて、「こんなこともあるのか」と思わさないとだめです。3回転から4回転になるのは普通の路線で、すごいと思うけれど、決してサプライズじゃない。昔、テレビでオリンピックの体操を見ていて衝撃だったのは、アメリカの選手が大車輪を片手でやったときです。両手ではなく「片手もありなんや」と。そういう発想ができる人間にならないとあかんなど。柔軟な頭を持ち、世の中の流れを感じ、風を感じるような人間を育てなければと思います。

◆留学生の受け入れ態勢を整備

楠見 関西大学は全学で国際化を進めていまして、多くの留学生に来てもらうとともに、日本人の学生がどんどん海外に出ていけるように、1年次から英語教育に力を入れています。

井村 言葉のハンディは、日本人だけでなく、中国人にもあるし、どこの国の人にもあります。ロシア人だって、英語に対するハンディを感じています。中国のナショナルチームでいちばん若かった上海の選手は、北京の言葉がほとんど分かっていませんでした。「あなたの北京語の力は私と同じぐらいね」と言ったほどです。英語もそのうちに上手になればいい、伝えようとする思いのほうが大なんだから、ということが分かればよいのです。



楠見 それは身をもって海外を経験されているからです。私もイギリスにいたとき、スコットランドの人とイングランドの人は、同じ英語でも通じていないのを知り、ああこんなもんかと思いました。若い人たちにも、我々が体験したことを体験してほしいのです。

本学には世界中から留学生が来ていますが、やはり多いのはアジアです。今年1月には、上海の復旦大学内に本学の上海事務所を開設しました。また来年の4月には日本語教育センターの機能を備えた「南千里国際プラザ」と「留学生別科」(11ページ参照)を開設する予定です。

井村 外国から日本に来る人は、勉強して知識を豊かにすることが目的ですから、思いっきりしごけばいいと思います。そうしなかったら、日本の教育が世界から見くびられてしまいます。

楠見 日本の学生たちにとっても、よい刺激になるはずで。これからの大学の社会貢献は、日本国内にとどまらず、世界や地球社会に対しても、どう貢献するかを考えていかなければなりません。

◆海外体験が人生の永遠のエネルギーになる

井村 なぜ私はこんなに長い間コーチをしているのかというと、それは人間が好きだからです。ただかわいいだけの子どもが一人の立派な女性になっていくのを見届けられること。それがコーチとしての醍醐味です。人を育てるのに誰にもあてはまる正解、いつも同じ答えはないんです。昨日この子にびつたり言葉は、今日はもう合わなくなっています。同じ子に明日はまた違うことを言わなければならない。人を相手にすれば、いつも応用問題です。それがすごく面白いのです。私はそういう仕事が好きなんです。

人間が嫌いな人が先生になったらだめです。そんな先生に教えてもらう学生や子どもたちは、大きな迷惑です。そして、指導者は人の気配を感じられる人間でなかったらだめです。分かったと言いつつ、不満いっぱいでも納得していなかったり、気持ちが弾んでいなかったりする子がいます。相手の気配を感じようと思ったら、日ごろから生活の立ち居振る舞いも見ておかなければなりません。授業や練習のときだけ、その子にフィットしたものにしようとしても無理です。ちゃんとその人の人格を認めて、個人個人を見つめているということが、指導者としていちばん大事なことだと思います。

楠見 そのことは、我々も少人数のゼミや研究室の中で感じていることです。また、スポーツで入ってきた学生にも、文武両道はもちろんのこと、スポーツを通じて人格を形成するようにと言っています。

最後に、関西大学の学生諸君に、ひと言お願いします。

井村 関西大学のキャンパスに行ってみて、一生懸命青春している学生がたくさんいて、いいなあと思いました。文武両道で頑張るのもいいし、朝から晩まで勉強してもかまわない。その環境が整っています。だけど、絶対に海外へ飛び出してください。外国へ行って初めて、自分の国の素晴らしさを知るので。私は中国へ行って、日本人のこまやかな心遣い、おもてなしの心

は、なんてすてきなんだと思いました。また、孤独にも強くなりました。

無人島ではなくて人が住んでいる所へ行くのだから、大丈夫。あなたも人だから住めるはず。関西大学の学習環境にも感謝できるし、日本人であることに誇りを持てます。そこで生きたということが、自信にもなります。ただ、行って楽しもうという考えは間違っています。初めはぎくしゃくしても、だんだん自分の生活のスタイルを見つけていったら、そこで得たものは一生の宝になり、自分の人生の永遠のエネルギーになるのです。人生は長いから、1年2年まわり道したとしてもどうってことはない。今しかできないことをしてください。

楠見 本学の客員教授として、これからも関大生にそのような思いを伝えていっていただきたいと思っています。

国内ではなくて世界を見て、自分の研究が先端からどの辺にあるのかを知らないといけない。研究者は過去のモデルのまねをしていたら、同じものしかできない。



楠見 晴重 (くすみ はるしげ)

1953年大阪府生まれ。78年関西大学工学部土木工学科卒業。81年同大学院工学研究科博士課程後期課程中途退学。82年関西大学工学部助手。専任講師、助教授を経て、02年教授。07年環境都市工学部教授となり、同年4月から学部長に。09年理系出身者初の関西大学学長に就任。学校法人関西大学理事。文部科学省大学設置・学校法人審議会委員、社団法人日本私立大学連盟常務理事、財団法人大学基準協会理事、土木学会フェロー会員、岩の力学連合会副理事長ほか。共編著書に「地図環境情報学 地下を診る最先端技術」など。



# LEADERS NOW!

## 21世紀の奴隷制= 人身売買を追究

「海外へ行って“困ること”がいいのです」

●留学生(チェコ出身) 文学部総合人文学科4年次生  
スザナ・レンカ・ハニバロバさん

1カ月ぐらいの滞在予定でチェコから日本へ旅行に来た女子学生が、日本語を習得し、関西大学文学部で4年間学ぶことになった。この3月に卒業するスザナ・レンカ・ハニバロバさんは、今宮戎神社(大阪市)の十日戎の福娘も務めた。卒業論文のテーマである女性や子どもの人身売買の問題を、大学院でさらに追究し、将来は支援する組織をつくりたいという。

「2005年に初めて日本に来たとき、京都のお寺や茶道などの日本文化に引かれました。多くの方に親切にいただいたのに、日本語がひと言も話せないのが残念でした。温泉に行き一緒にいるおばあちゃんから声をかけられたときは、日本語を勉強したいと強く思いました」

スザナ・レンカ・ハニバロバさんはチェコに戻り、再び大阪に来て日本語学校に入った。そして、2007年4月に関西大学文学部に入学。今宮戎神社の福娘になったことは、文化財が好きなハニバロバさんにはうれしい経験だった。「沖縄のきれいな海と明るい人々も、印象に残っています」

ハニバロバさんは東南アジア諸国への旅もしてきた。カンボジア、ベトナム、インドネシアなどで、女性や子どもの人身売買が大きな社会問題であることを知り、それが卒業論文のテーマになった。チェコにいたときから、アフリカからヨーロッパへ、東から西に女性が流れてくる現実に関心があったという。

「卒業論文では、自由とは何かということから始めて、21世紀の現代でも奴隷制が存在していること、なかでも“セックススレイバリー(性的奴隷)”の人身売買に焦点を当てました。麻薬や武器の売買は一度の利益で終わりですが、人身売買は女性と子どもの労働力を使っているの、何度も利益が入ります。急成長している“陰のグローバルビジネス”なのです。発展途上国のカンボジアでは、子どもの売春宿が大きな問題になっています。先進国の日本でも、中国や韓国、東南アジアとの間での人身売買が問題になっています」

ハニバロバさんは、4月から国立大学の大学院で研究を続ける。さらに将来は、被害を受けた女性と子どもを支援する国際協力団体をつくりたいという。



スザナ・レンカ・ハニバロバ  
■1983年チェコ・オストラバ生まれ。チェコ・オロモウツのPalacky大学を休学し、2005年10月から大阪市へ。ISCアカデミー、大阪文化国際学校で学び、07年4月関西大学文学部入学。4年次生。09年、今宮戎神社の十日戎の福娘に選ばれた。

「私の夢は、彼らが尊厳と安定をもって経済的に自立した生活を築き、愛と信頼、自信を再び持つこと、そして持続的に自由であり続けることです。ただし、私たちがいいと思って支援しても、彼らにとっていいかどうかはまた別です。頭の中で考えても分からないことがいっぱいあります。もっといろんなところへ行って、もっと見て、もっと感じて、もっと知りたいのです。彼らと一緒に話し合い、どうすればよいか考えていきたいと思っています」

後輩にも、海外へどんどん出ていくようにエールを送る。

「海外では言葉や文化の違いなど、いろんなことで困るのですが、“困ること”がいいのです。困って、どういうふうに対応していくかを考えることで、まず自分自身を知ることができます。少しずつ言葉を覚えて、新しい文化を学んでいけば、それが自分の勉強になります。また、外国へ行くと、自分の国のことが逆に分かってきます。私もチェコから離れたからこそ、チェコが好きになりました」



## 初心に返り “ドキュメンタリー映画”を監督

第1回監督作品『マジでガチなボランティア』

●メディアフォーユー株式会社 代表取締役社長  
里田 剛さん 一経済学部 1994年卒業

2010年12月に渋谷(東京都)の映画館で公開されたドキュメンタリー映画

『マジでガチなボランティア』は、里田剛さんの初監督作品。

テレビの人気番組のディレクターを務め、報道番組を担当してきた里田さんは、映像制作会社を経営しつつ、今後はドキュメンタリー作品も送り出していきたいという。映像とのつきあいは関西大学の学生時代に始まった。



里田さんは関西大学第一高等学校の卒業間際に、一人で韓国を旅行した。その経験が大学時代のライフスタイルを決定づけた。

「電車の中で『私は日本人が嫌いだ、豊臣秀吉が嫌いだ』と言われた。国籍によって嫌われることに衝撃を受けましたが、逆に親切にもらったりもして、すごく新鮮だったのです」

里田さんはアルバイトをして、休暇には海外へ出掛けた。アメリカ横断、シルクロード、東南アジア、ヨーロッパ、イスラエル、エジプト…。「自分の経験を何か形にしたいとずっと思っていました」

故 石田浩教授の中国経済のゼミで、中国の農村のフィールドワークを行った際、里田さんはビデオカメラを回した。「それを編集して石田先生にお渡しすると、写真や話だけでは伝わりにくいことが、映像を見せるとすぐに理解してもらえたと喜んでいただきました」

いつかNHKスペシャルのような番組を作りたいと思っていた。しかし、テレビ制作会社に入社してみると、バラエティ番組全盛の時代。ディレクターとしてかかわった「開運なんでも鑑定団」など、何百万人もの人が見ているという手応えがあり、夢中になって作るようになった。

TBSの「サンデージャポン」でコーナー担当のフリーディレクターになってからは、事件現場に行きレポートする役も務めた。しかし、里田さんの中では、放送の限られた枠内では大事な部分や本質が伝えられないというジレンマが深く大きくなっ



里田 剛—さとだ つよし  
■1970(昭和45)年、奈良県生まれ。94年関西大学経済学部卒業、株式会社ネクサスに入社。テレビ東京「開運なんでも鑑定団」など約10番組のディレクターを務める。98年からフリーランスとして活動し、TBS「サンデージャポン」などを担当。2006年メディアフォーユー株式会社を設立。会社紹介映像などの制作とともにドキュメンタリー映画も手がける。

ていったという。結局、テレビを辞めて、約1年半後に映像制作会社を設立した。

「営業をしたことがなく、自分にできることは映像を作ることだけ。本や雑誌で見て面白いと思った会社を訪ねて行って『取材させてください』と、突撃制作みたいなこともしました(笑)』監督デビュー作となった『マジでガチなボランティア』は、合コンとナンパに明け暮れていた大学生がボランティア活動が続いて、カンボジアに小学校と診療所を建てるまでの3年間を描いている。

「撮り始めたときは、映画にする意図など全くなかったのです。劇場公開映画にしようと思ってからが地獄でしたね。もともと映画用に撮っていない、撮り逃した素材もいっぱいある。病院が完成すると分かったのはかなり後で、話がどこに転ぶか分からない。夜中の12時ぐらまで普通の仕事をこなし、それから映画の編集を始めるのですが、明け方になると眠くて頭が回らなくなり、床にごろりと寝て、また朝が来る。すごく鍛えられましたね、ハハハハハ」



「何かに本気で取り組んだ人だけが知る、歓喜と絶望を描いた」というが、それは里田さん自身のことでもあった。また、初心を思い起こす過程でもあったようだ。里田さんは今後、1年に1本、10年に10本のドキュメンタリー映画を作りつづけるつもりだ。



研究最前線

学生主体の語彙教材の素材収集プロジェクト

ビジネスに必要な英語語彙を調査

学習意欲と学習効果を促進する語彙教材を開発

◎商学部  
岡本 真由美 准教授

商学部では「英語に強いプロアクティブリーダーの育成」を目指し、プロジェクト実践力と英語力を少人数教育で同時強化するプログラム「BLSP」(Business Leader Special Program)を展開している。文部科学省の平成20～22年度教育GPに採択されたこのプログラムの一環として、e-learning教材配信に向けた取り組みも進行中だ。その素材となる語彙・表現の収集は、岡本真由美准教授によるビジネス英語語彙教育の研究がベースになっている。

受信・発信に必要なビジネス英語語彙は？

—ご専門の語彙教育について。  
英語の統語構造を理解した成人学習者にとって重要な語彙教育には、何を知るべきかというWhatの問題と、どのように知るべきかというHowの問題があります。前者では、語彙教育のゴール設定が大きなテーマになります。学生の現状を把握して、社会で必要とされるレベルの目標をどこに置くかです。

ビジネスで情報収集をするときに、英語のビジネス雑誌の語彙レベルと、一般の英文のレベルとを比較すると、ビジネス雑誌を理解するにはかなり難しい単語を知っていなければなりません。私の研究では、ビジネス雑誌を90%理解するためには、10,000語が必要です。

これに対して、日本の大学生の平均語彙サイズは、およそ3,700語といわれています。それを10,000語に伸ばしていくのは気が遠くなるような作業でしょうから、もう少し現実的なゴールを設定できないかと考えて調査をしてきました。

一方、3,000～4,000語程度で十分とする文献もありますが、それではビジネスプランを発表する際など、知的レベルと言語レベルの乖離が起こってくるのです。大切なアイデアを発表するのに、とても子どもっぽい英語表現になってしまいます。かといって、理想目標の10,000語では絵に描いた餅になってしまうので、どうすればもう少し現実的なラインを引けるかを調べたのです。

—その調査内容と結果から分かったことは？

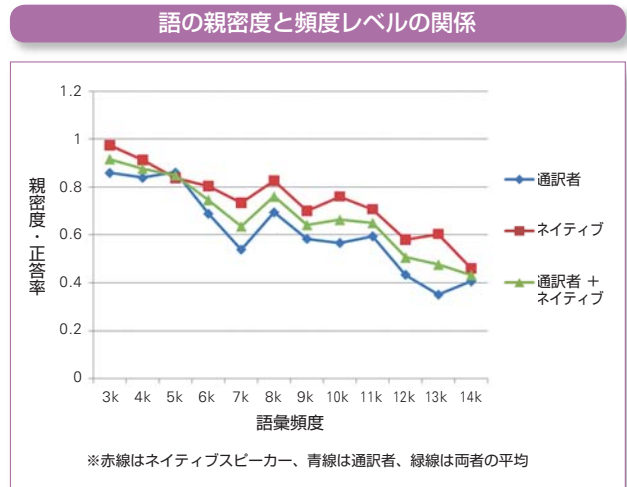
関西大学商学部の学生や他大学の学生の語彙知識も調査してきましたが、ここではネイティブスピーカーと通訳者たちを対象とするデータを示します。ネイティブに関しては、どのような語彙をよく使うかという親密度を聞きました。通訳者の場合は、語彙テストの正答率を調べ、それをグラフ化しました。横



軸は単語の頻度レベルで、3,000語から14,000語まで。縦軸は、ネイティブでは親密度(全体の何%がよく使うか)、通訳者では正答率を表しています。

緑色のグラフは、ネイティブと通訳者、つまり英語をうまく運用している人たちを集めて語彙テストをした結果です。英語を自在に使っている人たちということで、一つにグループ化しました。

単純な線グラフのようですが、実は語彙教育の観点から面白いことを示しています。7,000語までは直線的に下がっていて、全員が一致してレベル別に使用頻度をはっきりしています。そこから、単語を覚える意義や、優先順位のあることが推測できます。7,000～10,000語のところは折れ曲がっていて、使用頻度がばらばらで、頻度レベルでは、学習する意義などは推測できません。11,000語以上は再度低下傾向を示していて、運用能力の高い者にとっても非常に低頻度です。それは、授業で教える妥当性が低いということです。理想的なゴールはもちろん10,000語レベル以上のほうがいいけれども、もう少し現実的なゴールとしては7,000語レベルだといえます。



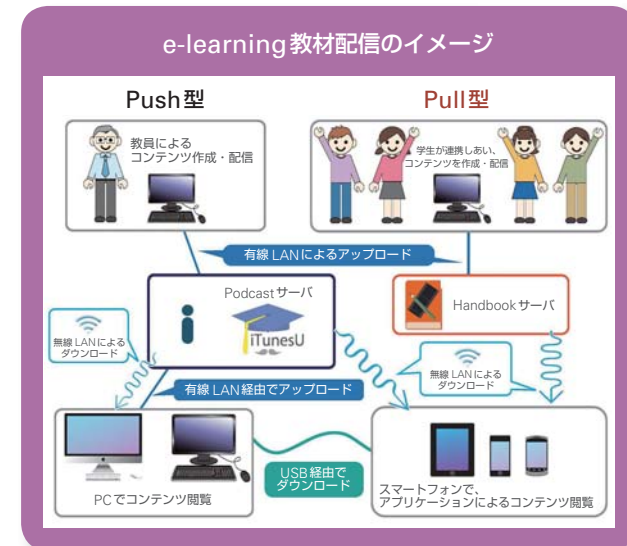
Business Words to Know プロジェクトを展開

—学生による語彙教材の素材収集プロジェクト「Business Words to Know (BWK)」とは？

商学部BLSPでは「英語に強いプロアクティブリーダー」を育成するために、e-learning教材配信の取り組みを進めています。ようやく素材ができてきて、今年の4月からそれをコンテンツ化していく予定です。これはダブルチャンネルによる教材配信、つまりPush型(教員主導)とPull型(学生主導)の教材配信を実施し、パソコンやスマートフォンによる学習を可能にするものです。

BLSPの授業で、「商学部生の、商学部生による、商学部生のための語彙学習教材」を目指して取り組んでいる素材収集作業がBusiness Words to Know (BWK)プロジェクトです。実は既習語彙のメンテナンスをしないと、すごい勢いで忘れていくのです。受信・発信に必要なビジネス英語語彙である7,000～8,000語のうち、上位の4,000～8,000語は語彙ワークブックなどで対応すると、基礎の3,000語レベルをどうやって再学習するかが問題です。

中学・高校で覚えたはずのものを、もう一度覚えろと言われるのはつらいでしょう。しかし、ある程度負荷をかけて深く学習しないと記憶に残らない。楽しい、面白いと思える、新しいやり方で、しかも目標やニーズに合っていて、学習意欲と学習効果が促進されるような再学習の方法は？ そこから出てきたのがBWKです。



—BWKの具体的な内容は？

Step 1として、2年次生科目の「英語プレゼンテーション」でプレゼン原稿を書くときに、辞書で調べた内容を記録して単語帳を作成してもらいます。日本語から英語、英語から日本語、それぞれ訳をつけて、一人30語ずつ、計60語を提出させます。その際、質問、発見、感想などを記録させることで、どういう単語につまずいて、どういう単語を使うときに疑問を持つのがわかります。

Business Words to Know : Step 1

調べた語句					
英語	日本語訳	備考 (調べていて、気になったこと、発見など)	日本語	英語訳	備考 (調べていて、気になったこと、発見など)
concern	関心がある、関心を持つ	care about, be interested inとニフスの違いはあるのか？	尋ねる	ask	askを使った場合よりquestionを使った場合のほうが質問するという意味がでる気がする。
ecological	生態の、環境にやさしい	ecologicと違いはあるのか？	害を与える	harm, damage, injury	環境を害すると言う意味が一番でやさしいのはどれか分からない。
almost	ほぼ	nearlyとニフスの違いはあるのか？	賛成する	agree with	favorよりinformalな表現である。
huge	莫大な	enormousと意味の違いはあるのか？	問題を処理する	deal with	cope withより広い面でつかえる。明確な違いは分からない。
decrease	減らす	reduceとの使い分けはすべきか？	高速道路交通システム	intelligent transport system	intelligent(知的)という形容詞がつくのが面白い。
regarding	～に関して	concerningとの使い分けはすべきか？	排出	exhaust	二酸化炭素などの排気の意味で使うのはdischargeより好ましい動詞である。

Business Words to Know : Step 2

英語	日本語	見つけた例文	例文の日本語訳
specialize in	～を専門とする	He specialized in marketing.	彼はマーケティングを専門としていた。
specific	特殊の	The money was collected for a specific purpose. A specific remedy for tuberculosis.	そのお金は、明確な目的のために集められた。 結核の特効薬。
specification	詳細に記すこと	The house has been built exactly to our specifications.	その家は私達の明確通りに建てられている。
speeding	スピード違反	Max was fined £300 for speeding.	マックスはスピード違反で罰金300ポンドを課せられた。

Step 2として、3年次生科目の「上級ビジネス英語」でStep 1の単語をシャッフルし、自分なら「このような例文で、この表現を学びたい」と思える、ビジネスジャンルで使われる例文を作成してもらいます。そして4年次生になって、西岡ゼミの指導も加わってコンテンツ化していきます。

「大人の『物言い』としてのビジネス英語」

—ビジネス英語を学ぶ学生へのアドバイスを。

ビジネス英語というのは、大人の「物言い」であり、ものはいよいよです。単語の勉強というと、英単語の日本語訳を覚えることだと思われがちですが、実はもっと奥が深い。例えば、何かを断る場合、rejectは非常にきつい。それより少し緩やかなのがrefuseであり、相手を傷つけないように、日本語なら辞退するという言葉になるのがdeclineであるということまで分かっほしい。大人としての気遣いやその場の戦略にあった「物言い」はどれなのか、それを知らなきゃまずいんじゃないか、と学生には思ってもらいたいのです。

また、「英語のココロ」ということも話しています。今まで習った文法でも、カタチが違えば必ずココロが違う。それはどう違うのかを知って、どう使い分けるか。例えば、You disappointed me. = I am disappointed with you.のようによくイコールで結んで書かれていますが、これは本当にイコール？と疑ってほしい。受動態と能動態は組み替え可能なのではなく、それぞれに使い方や意味が違う。受動態のカタチだけでなく、ココロを知ってほしいと思っています。

大切なことは、Be logical(論理的にもの考える)、Be nice(感じよくいこうぜ)、Be strategic(戦略的にいこうぜ)、そしてBe stylish(かっこよくいこうぜ)です。立ち止まって、疑って、考えて、調べて、一歩踏み出す力を手に入れてください。



■研究最前線

「親街路性」と「親空性」の建築環境デザイン

場所の声を聞く

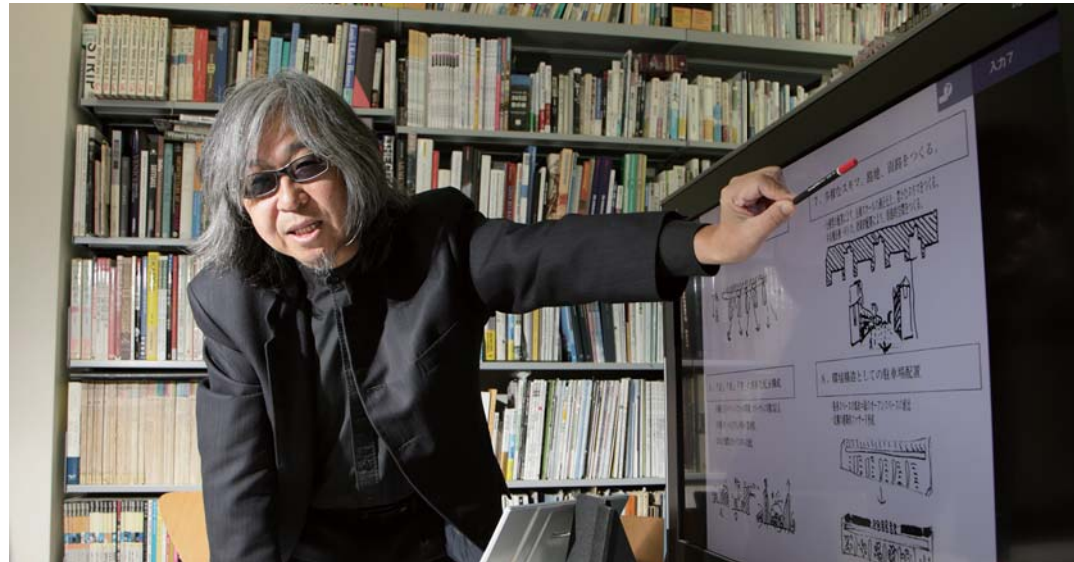
団地を魅力ある住宅市街地に再生する

●環境都市工学部 建築学科  
江川 直樹 教授

江川直樹教授の建築環境デザイン研究室では、1年の半が水につかるカンボジアのカンボンブロック村の実測調査を続けている。また、丹波の過疎の村で学生が空き家をリノベーションし、地域と交流する「TAFS佐治プロジェクト」の活動も継続中だ。建築家としての江川教授は、多くの集住環境のデザインを手がけてきた。建築とは「場所の声を聞く」ことであり、建築家の仕事は「場所のポテンシャルを探り出し、建築を通してそれを社会化する」ことだという。江川教授の建築観とその実践を紹介する。

■ヨットハーバーと公営住宅が共存できる街

《江川教授が1989年に設計した「アルカディア21住宅街区」(兵庫県三田市)は、90年に公共の色彩賞を受賞し、2008年に土木学会デザイン賞を受賞した。98年に設計した「南芦屋浜災害復興公営住宅」(兵庫県芦屋市)は、2000年に公共の色彩賞などを受賞し、2010年に地域住宅計画賞を受賞した。建築直後の受賞から18年、10年たってから再び受賞することは珍しい。一般に時間の経過とともに価値が減っていく日本の住宅のなかで、長い年月を経てその真価が認められ、輝きを増す例は少ない。》  
江川 建築は建ったときに意味がないといけません、その意味が建った後すぐに理解されるものばかりではありません。最初にいただく賞は、モノとして評価された結果ですが、そこで人々が暮らすことによって愛着を持ってもらえるような環境を



つくっているか、周りの人々にとっても意味のあるものをつくっているかなど、評価の基準が変わってきます。

南芦屋浜の集住街区は、震災復興の公営住宅です。埋立地に建てられた当初は周りに何もなくて、六甲山や海が見えるだけで、身近な周辺との連続性の感じられない建物群にも見えかねないものでした。

しかし、現在では当初から掘りこまれていた運河にヨットハーバーが、近隣には商業施設もでき、新しい芦屋の海浜住宅市街地としての美しいコラージュ的な風景ができあがっています。計画時に思い描いていた、ヨットハーバーがあるようなお金持ちの街と、高齢者や庶民の住む公営住宅とがうまく共存できる街ができたのではないのでしょうか。エレベータの位置も、アクセスの際に街や海がよく見えるようにするなど、将来の姿を想像し、それらとの共生を考えた空間設計をしています。このように、これから先に街がどうつくられていくかを想像して、この場所ならではの魅力的な集住環境を設計していかなければならないと思います。

■建築の目的は生きるための場所をつくること

《「この場所ならではの魅力的な集住環境」とは何だろうか。江川教授は若いころから一貫して、「場所の声を聞く」ということを語ってきた。近年、社会問題になっている団地の再生は、老



朽化した建築・住戸の改善だけでなく、コミュニティを含む「まち」の再生という視点が必要だ。江川教授は「場所の声を聞く」ことによって、その地域を魅力ある住宅市街地に変えていくことができるという。その際にポイントとなる、建築の街路との関係性、空との関係性とは？)

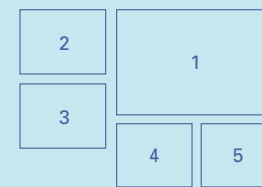
江川 私が31歳の時に、当時のJIA(日本建築家協会)事務局長の方に頼まれて建築について思っていることを話す機会があり、「場所の声を聞く」という話をしました。そのころから、敷地や敷地の周囲はどうしてほしいのかを言っているのではないかと、その声と設計者や住む人や工務店などが応答を繰り返しながら、その場所にしかないもの、その場所にあるのが最もふさわしい住宅をつくらねばならないのではないかと、というようなことを考えていました。

いまだに建築はハコをつくるものと思われているのが問題です。建築の目的は、生きるための場所をつくることです。どこで、誰と生きているかということが重要で、その場所で生きているんだと感じられるようなものをつくるのが、建築家の役目です。

建ち並ぶ家々が、いかに街路、道路空間と親しめる関係性をもち得るかという点を、私は「親街路性」と呼んでいます。例えば、建築と道路の間に大きな緑ができると、建築と街路、街路を歩く人々との関係が遠くなってしまい、街は歩いていてもつまらないものになっていきます。建築が社会に近づいていくほど、社会の安心・安全が得られる環境になっていくのです。オートロックにして閉鎖的にすれば安全と思われていますが、外から中が見えない世界ができると、結果的には危険な領域をつくっているように思います。「人気=ひとけ」の感じられる市街地の道路空間を、集住空間のデザインとしてつくっていくことが重要だと考えています。

また、いかに空とつきあう生活環境を形成するか、言い換えると屋根並みの視点を「親空性」と呼んでいます。低く抑えて横一線の高さ制限をしてしまうと、容積率を効率的に使おうと考えた場合、すき間のない壁にしかありません。逆に、高さが周囲より少し高くなったとしても、下の部分にすき間を作ったほうが、風も抜けるし、視線も抜けるし、コラージュ的な風景ができ、全体としての環境はよくなります。こういったことは建築だけを考えていると到達できない話であり、私たちは法律を含めて議論できる環境をつくっていかなければなりません。

浜甲子園さくら街



1. 街区に面して住棟を配置し、メインの道路沿いは4層+ペントハウス(屋上の住戸)といった中低層棟とし、その背後に塔状の高層棟を配する。浜甲子園の広く心地よい青空が感じられるタウンスケープ。
2. 道路沿いの1階住戸は、すべて道路から出入りできる専用庭を持っている。専用庭は、落下防止の庇とあいまって平屋が立ち並んでいるようで、ヒューマンな界隈性をつくり出している。
3. 道路沿いには、道路から出入りでき、プライバシーを守りつつも、人気の感じられる平屋のような構造の専用庭が設けられている。
4. 中低層のまちなみの上に、塔状の高層棟が混ざるデザインは、一般的な高さ規制に従うだけでは実現できない。
5. 原っぱのある街区の内部も、デザインされた低層の自転車置き場などが、ヒューマンで気持ちのよい空間をつくり出している。

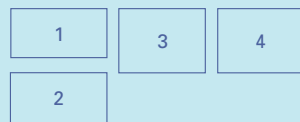
■団地から住宅市街地への転換を実現

《「浜甲子園さくら街(建替1期)」で、江川教授は多数の賞を受賞した。07年に関西まちづくり賞(日本都市計画学会関西支部)、08年に地域住宅計画賞、JIA優秀建築選、09年に都市住宅学会賞。そして今年、西宮市都市景観賞(まちなみ発見クラブ賞)が加わった。これは景観に関心の高い市民らの審査で選ばれた賞であり、建物の高低や奥行きのある構成、落ち着いた色合いなどにより、高層ながら快適な印象のまちに生まれ変わったことが評価された。》

江川 浜甲子園さくら街は、旧公団住宅団地の建て替えのプロジェクトです。高層棟を細い塔状のものとして中層棟と混在させ、空に対する意識を高めて、浜甲子園の気持ちのいい、広い青空が感じられるように提案しました。従来の建物の高さイメージを継承するため、バス通り沿いには高い建物を建てないようにして、その背後に塔状の高層住棟を配しています。市街地からの道が団地で分断されていたものを再編し、新たに公共の道として整備しました。その道に沿って建築が建ち並ぶ沿道型、街区型の配置として、団地から住宅市街地への転換を実現したのです。



南芦屋浜災害復興公営住宅



1. 将来を見越して計画された環境構造としての集合住宅群
2. ヨットハーバーや商業施設ができ、六甲山から海までが一体となった海浜住宅市街地になっている
3. 光と影が変化し、時間とともに、季節とともに、違った表情が見える
4. 「親街路性」が親密な雰囲気を出す



2012年4月、「関西大学留学生別科」を開設(構想中)  
「関西大学南千里国際プラザ」：留学生宿舎・教育施設を建設



「関西大学南千里国際プラザ」外観 完成イメージ

## 国際化推進拠点の創出

### 留学生・一般学生・地域住民が「共に学ぶ異文化交流」の場に！

関西大学は2012年4月、「関西大学留学生別科」を開設する(構想中)。本学の学部・研究科を中心に、国内の大学・大学院への進学を希望する外国人を対象に、日本語等を教授し、国際的な人材を育成する。また、阪急電鉄千里線南千里駅近くに「関西大学南千里国際プラザ」を建設(2012年2月竣工予定)し、留学生宿舎(寮室：156室)、留学生別科用教育施設等を設置する。



エントランス部分▶

よる12年の学校教育を修了した者もしくは修了見込みの者、またはこれと同等以上の資格を有すると認定された者、②原則として、1年以上の日本語の学習歴を有する者または同等の能力を有すると認定された者。

#### ◆カリキュラムの主な特長

- ①日本語の習熟度に合わせ、6つのレベルの日本語クラスを設置。月曜から金曜までの毎日、90分の日本語クラスを3コマ開講し、「読む・書く・聞く・話す」の4つの技能の練達を目指す。
- ②アカデミックな日本語を習得するための学部・大学院の入学準備クラスを設置する。また基礎科目として、英語・数学・物理・化学・生物等のクラスを設置する。
- ③「日本語能力試験」及び大学・大学院入試として、本学の学部をはじめ、日本の多くの大学が採用する「日本留学試験」対策のクラスを設置する。

#### 関西大学南千里国際プラザ

#### ◆学内にとどまらず地域の国際化にも貢献

本学の国際化推進拠点として位置づけ、「留学生・一般学生・

地域住民による「共に学ぶ異文化交流」をコンセプトに、本学及び地域の国際化に貢献することを基本方針としている。

留学生へのアドバイス・支援を行うため、本学の一般学生がRA (Resident Assistant)として入居することも特色の一つである。

#### ◆建設の全体計画と概要(予定)

留学生宿舎(寮室、共用施設)、留学生別科用教育施設等を設置するとともに、地域住民との交流スペース等を設ける。

①建物 (構造、面積、高さ等)	鉄筋コンクリート造 地上8階 建築面積 1,705.92㎡ 延床面積 7,342.44㎡ 建物高さ 24.61m
②留学生宿舎 (室数、面積、設備等) (代表的居室プラン)	●寮室はすべて個室とし、プライバシーを確保する。 ●全室が南に面し、各ユニットでラウンジ・キッチン等を共有した快適な居住空間を提供する。 ●室数：寮室 156室 ●面積：14㎡以上 ●設備：トイレ付きユニットバス 冷暖房
③共用施設、その他の設備等	1. 共用施設：多目的室/和室/ トレーニング室/共用キッチン/ 洗濯室/事務室/管理人室 2. 留学生別科：教室/図書室/ 自習室/ラウンジ/講師室



各種交流イベントを開催することが可能なウェルカム・パティオ(中庭)

#### ◆特長…異文化交流・体験の場となる快適な空間

- ①各寮室には、机・椅子・ベッド・クローゼットのほか、トイレ付きユニットバスを設置するなど、プライバシーに配慮した先進的で快適な空間を提供する。
- ②寮室の配置については、基本的にユニット制を導入する。ユニット制とは、ホテルのように各部屋を横並びに設置するのではなく、約6~7室ごとにユニットを構成し、ユニット単位で共同ラウンジ・キッチンを設置するなど、異文化交流・共同生活を形成しやすい構造とする。
- ③一般学生をRA (Resident Assistant)として各ユニットに1人配置し、留学生の生活上のサポートを行いながら、活発な異文化交流・体験の場とする。
- ④地域住民とのさまざまな交流を図るため、建物中央部のウェルカム・パティオ(中庭)を活用し、各種交流イベントを実施する。

## KANDAI NEWS

### 「関西大学福島学舎記念碑」建立 除幕式挙行



関西大学は昭和の初めまで、大阪市福島区に学舎を置いていた。2010年12月17日、本学が1929(昭和4)年まで学舎として使用していたことを記念して、跡地の一角に「関西大学福島学舎記念碑」を建立し、記念碑除幕式を挙行了した。

1905(明治38)年に「私立関西法律学校」から専門学校令による「私立関西大学」に名称を変更した本学は、大阪市の市電敷設計画により江

福島学舎跡地に建立された「関西大学福島学舎記念碑」▶



◀天六学舎に移転する1929(昭和4)年まで使用されていた福島学舎(関西大学年史編集室蔵)

戸堀校舎からの移転を決め、1906(明治39)年12月17日に福島学舎を建設した。

福島学舎は、関西大学第一高等学校・第一中学校の前身である関西甲種商業学校の誕生の地でもあり、本学の発展を語るうえで欠かすことができない学舎として歴史に深く名を刻んでいる。



ミズノ株式会社と連携協力に関する協定を締結

## スポーツを通じて社会貢献、地域連携 新ユニホームを紫紺の関大色で統一



握手を交わす、楠見晴重学長(左)とミズノ株式会社 上治丈太郎専務取締役

関西大学とミズノ株式会社は、連携協力に関する協定を締結することで合意に達し、1月17日に協定書の調印式を行った。今回の協定は、教育・研究・文化の振興、人材育成、スポーツの振興、社会貢献などの分野において、双方の発展と充実に寄与するために積極的に連携を推進することを目的としている。関西大学が民間企業と連携協定を結んだのは、今回で5件目であり、銀行以外では初めての協定締結となった。

### ●地域貢献を重視しスポーツ文化を振興

関西大学とミズノ株式会社との連携協力に関する協定の調印式は、1月17日に千里山キャンパス100周年記念会館で行われた。

関西大学からは楠見晴重学長、廣瀬幹好副学長(社会連携推進担当)、黒田勇副学長(総務・渉外担当)、ミズノ株式会社からは上治丈太郎専務取締役、楠本昌男アスレチック事業部西日本営業部長が参加した。

初めに、楠見学長が挨拶を述べた。「今年で125周年を迎える関西大学は、国際化とともに地域連携の強化に力を入れています。大阪に生まれ、長く大阪に育まれてきた本学とミズノ株式会社が協力して、学術文化、スポーツに関するお互いの資源を提供することで、この大阪、そして関西という地域の社会と文化の発展に大きく貢献していこうとするものです。国際化と地域連携という本学の方針に合致する日本のリーディング企業であるミズノ株式会社との連携を深めて、多くの知識や情報を共有することで、お互いにこの地域に貢献していきたいと考えております」

連携協力事業の内容として、次の6項目が挙げられている。

- ①教育・研究・文化の振興に関すること
- ②人材育成に関すること
- ③スポーツ文化があふれる地域づくりに関すること
- ④スポーツの振興に関すること
- ⑤社会貢献に関すること
- ⑥双方が有益にして必要と認める事業

### ●紫紺を基調に、統一感のあるユニホームが誕生

ミズノ株式会社は、国内最大手の総合スポーツ用品メーカーで、1906年創業の老舗である。お互いの伝統と歴史を基にして、両者のさまざまな資源を生かす連携協力の発展が期待される。

具体的な内容については、黒田副学長から説明があった。「本学の各クラブのユニホームやウェアは、それぞれ素晴らしい伝統を引き継いでいるのですが、統一感に欠けます。これから関西大学のアイデンティティを明確に押し出すために、スクールカラーの紫紺を基調として、洗練された、統一感のあるユニホームを作製していただくこととなります。まず、アイススケート部、アイスホッケー部、アメリカンフットボール部、サッカー部、野球部、陸上競技部(駅伝)、応援団吹奏楽部のユニホーム・ジャケットが新しくなります。また、ボランティア活動などを行う際のTシャツ等も含まれます」



続いて、ユニホームなどのサンプルが披露された。

今後、関西大学体育会が近隣の小中学生を対象に実施している「一日体験入部」やスポーツ教室での連携、関西大学ボランティアセンターが中心になって行っている淀川河川公園の清掃ボランティア活動での連携なども予定されている。

「第4回 関大ふくい笑い講」開催

## 文化会落語大学と「笑い測定機」も活躍 福井県と連携し「笑いの力で健康長寿」を实践

健康長寿に大きな力を持つと考えられる「笑い」を、一人ひとりの健康づくりに役立ててもらおう目的で、「笑い」と「ここから」について考える「第4回 関大ふくい笑い講」が、1月23日に福井県で開催された。関西大学の学生も参加して繰り広げられた講演と落語のひと時、会場は終始笑いにつつまれた。



講演と落語が開催された「笑い講」に約500人が参加

「第4回 関大ふくい笑い講」のプログラム



NPO法人プロジェクトaHと関西大学文化会落語大学による「『笑い測定機』の挑戦—あなたの笑いを測ります—」では、学生たちのフレッシュな小唄が巻き起こす笑いを数値化して見せた。笑い測定機は、故 木村洋二関西大学名誉教授が考案したもので、横隔膜の振動を計測して笑いの強さを測ることができる。木村名誉教授の元で学んだ人たちが参加しているプロジェクトaHは、笑い測定機の研究・開発事業を通して心身ともに健康な社会の構築に貢献することを目指している。

### ●免疫力を活性化する笑いの力

落語家のゲストとして、桂かい枝さんが登場。桂かい枝さんは、15年ほど前から英語による落語を始め、これまでに世界10カ国以上で公演を行い、上方落語の次代を担う若手として注目されている。当日は、さすがプロという笑いの芸を披露した。

医師で日本笑い学会副会長の昇幹夫氏は、「元気で長生き、PPK(ピンピンコロリ)のコツ!」のタイトルで講演。「笑いは体内の免疫力を活性化し、がん細胞を破壊する」という吉本の笑いをういた実験や、がん患者とのモンブラン登山という生きがい療法を通じ、笑いの効用を解説した。

関西大学と福井県との連携事業は、河田梯一前学長が2006年に新聞に寄稿した記事の中で、福井県出身の歌人である橘曙覧たちばなのあけみに関する言及があったことから、西川一誠福井県知事が御礼の書簡を送付したことがきっかけとなって始まった。

「関大ふくい笑い講」のほか、学生の課外活動団体である関西大学法律相談所による「福井無料法律相談会」など、さまざまな交流連携事業を行っている。

### ●「笑い測定機」で笑いの強さを測る

「関大ふくい笑い講」(福井県・関西大学主催、日本笑い学会後援)は、健康長寿に大きな効果がある笑いの力をテーマとする愉快な講座だ。第4回目の今年は1月23日、福井県民ホールAOSSAで、約500人が参加して開かれた。

「新年を寿ぐ笑いの祭り」と題して、森下伸也人間健康学部教授が講演。日本笑い学会会長を務める森下教授は、笑いを神に奉納して新年を祝う、世界的にもユニークな日本の祭りを映像とともに紹介し、その根底にある「笑門来福」の思想について述べた。



KANDAI NEWS  
 ■ 関大ニュース

速記部が全日本大学速記競技大会で45連覇の快挙



第99回全日本大学速記競技大会が2010年12月5日、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催され、文化会速記部が優勝し、全日本大学速記競技大会団体45連覇を達成した。個人では、A級で平見遼介さん(政策3)が1位、稲葉彩佳さん(社3)が2位、佐藤大樹さん(文3)が3位と上位を独占した。なお、同部は2010年11月7日に関西学院大学で開催された第50回関西学生新人速記大会においても、団体優勝を果たした。

関大一中の大西春花さんが最年少で歌会始へ



新春恒例の宮中行事「歌会始の儀」が1月14日、皇居・宮殿で開かれた。2万802首の応募作から選ばれた10人の入選者の一人として、関西大学第一中学校の大西春花さん(3年)は、自分の歌が朗詠されるのを緊張の面持ちで聞いた。

大西さんは今回の入選者の中で最年少。短歌は夏休みの宿題で、詠んだのは初めてだった。今年のお題は「葉」。バスケットボール部に所属している大西さんは、打っても打ってもシュートが入らずスランプに陥って悩んでいたとき、親友の温かい言葉に励まされた経験があり、その感謝の気持ちを歌にこめた。

「大丈夫」この言葉だけ言ふ君の  
 不安を最初に気づいてあげたい

社会安全学部・大学院社会安全研究科  
 第1回東京シンポジウムを開催

社会安全学部・大学院社会安全研究科は2010年12月16日、関西大学東京センターで第1回東京シンポジウムを開催した。社会安全学部長の河田恵昭教授、高野一彦准教授、名城大学教授・弁護士の郷原信郎氏の講演ののち、同学部の安部誠治教授、布村明彦関西大学客員教授なども加わったパネルディスカッションが行われた。「企業が直面する首都圏でのクライシス」をテーマに、災害対応、危機管理やコンプライアンスについて議論が展開され、企業関係者ら約200人の参加者は熱心にメモを取りながら聞き入っていた。

世界フィギュアスケート選手権など  
 出場選手壮行会を開催

世界フィギュアスケート選手権などの出場選手壮行会が、1月12日に千里山キャンパスで開催された。体育会アイススケート部に所属する高橋大輔さん(文学研究科M2)、織田信成さん(文4)、町田樹さん(文3)、國分紫苑さん(社1)が参加し、学生や一般市民約700人から、活躍を祈願する拍手のエールが送られた。

高橋さんは世界フィギュアスケート選手権大会と四大大陸選手権大会、織田さんは世界フィギュアスケート選手権大会とユニバーシアード冬季競技大会、町田さんはアジア冬季競技大会、國分さんはユニバーシアード冬季競技大会に出場。高橋さん、織田さんらは、全日本大学選手権で優勝したサッカー部員がつくった騎馬に乗り、「ぜひ優勝を」「金メダルを」と意気込んだ。



(写真左から) サッカー部員がつくる騎馬に乗る町田さん、高橋さん、織田さんと國分さん

サッカー部が43大会ぶり全日本大学選手権優勝

快進撃を続けてきた体育会サッカー部が、ついに頂点まで駆け上った。1月5日、東京・国立競技場で行われた第59回全日本大学サッカー選手権大会決勝戦で、関大サッカー部は対戦相手の中京大学と延長戦の末2-1で勝利をおさめ、見事大学日本一の座をつかみとった。本学が同大会で優勝したのは、43大会ぶり2度目のことで、島岡健太監督は「多くの方にお世話になってここまで来ることができた。それを感謝できる選手が増えてきたことがこの優勝につながった」と語った。



今大会の最優秀選手として、決勝戦で優勝を決めるゴールを決めた奥田勇太さん(文1)、優秀選手に岡崎建哉さん(ベストMF 政策2)、田中雄大さん(ベストDF 商4)、金谷和幸さん(ベストGK 人1)がそれぞれ選ばれた。